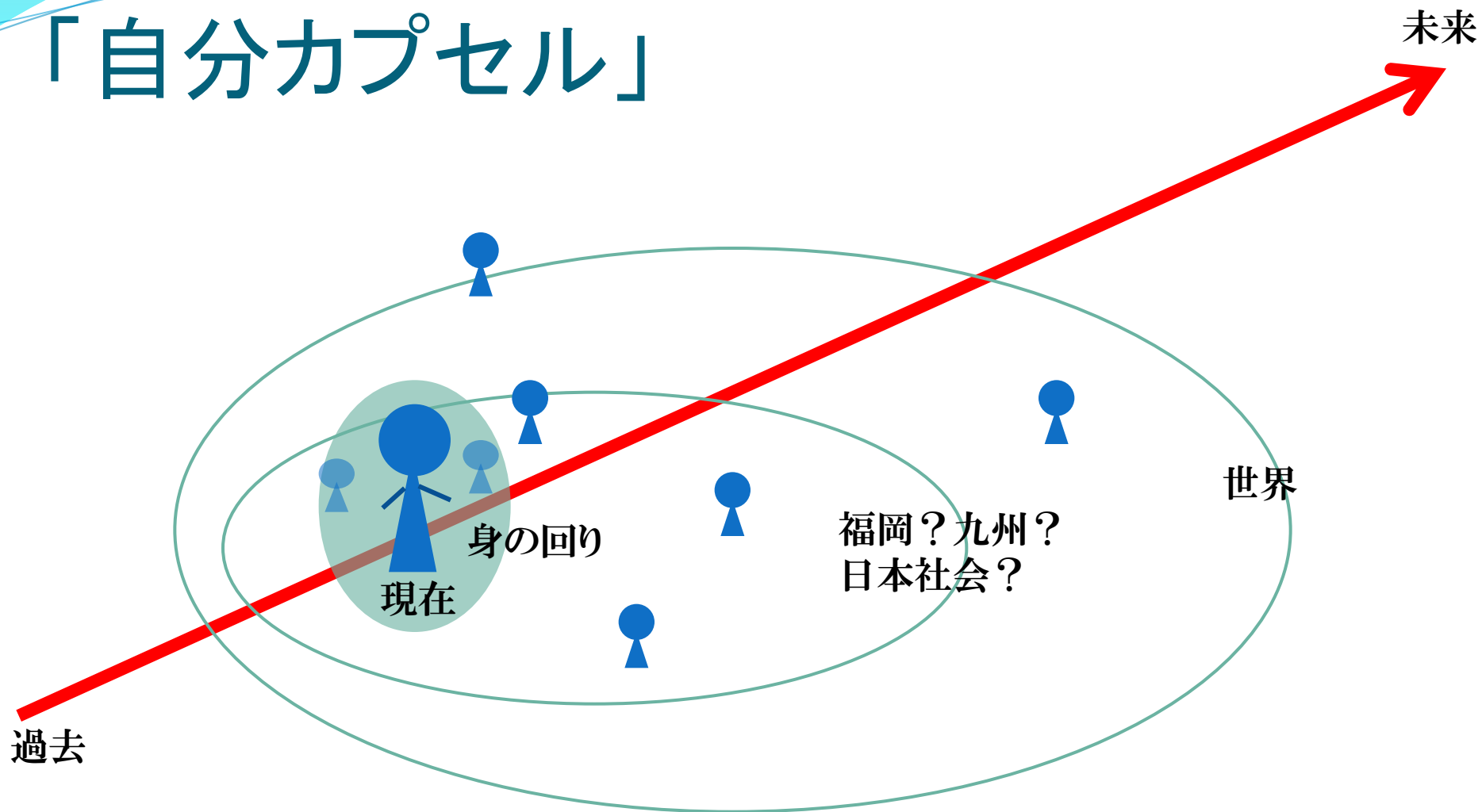




命名

「自分カプセル」

「自分カプセル」

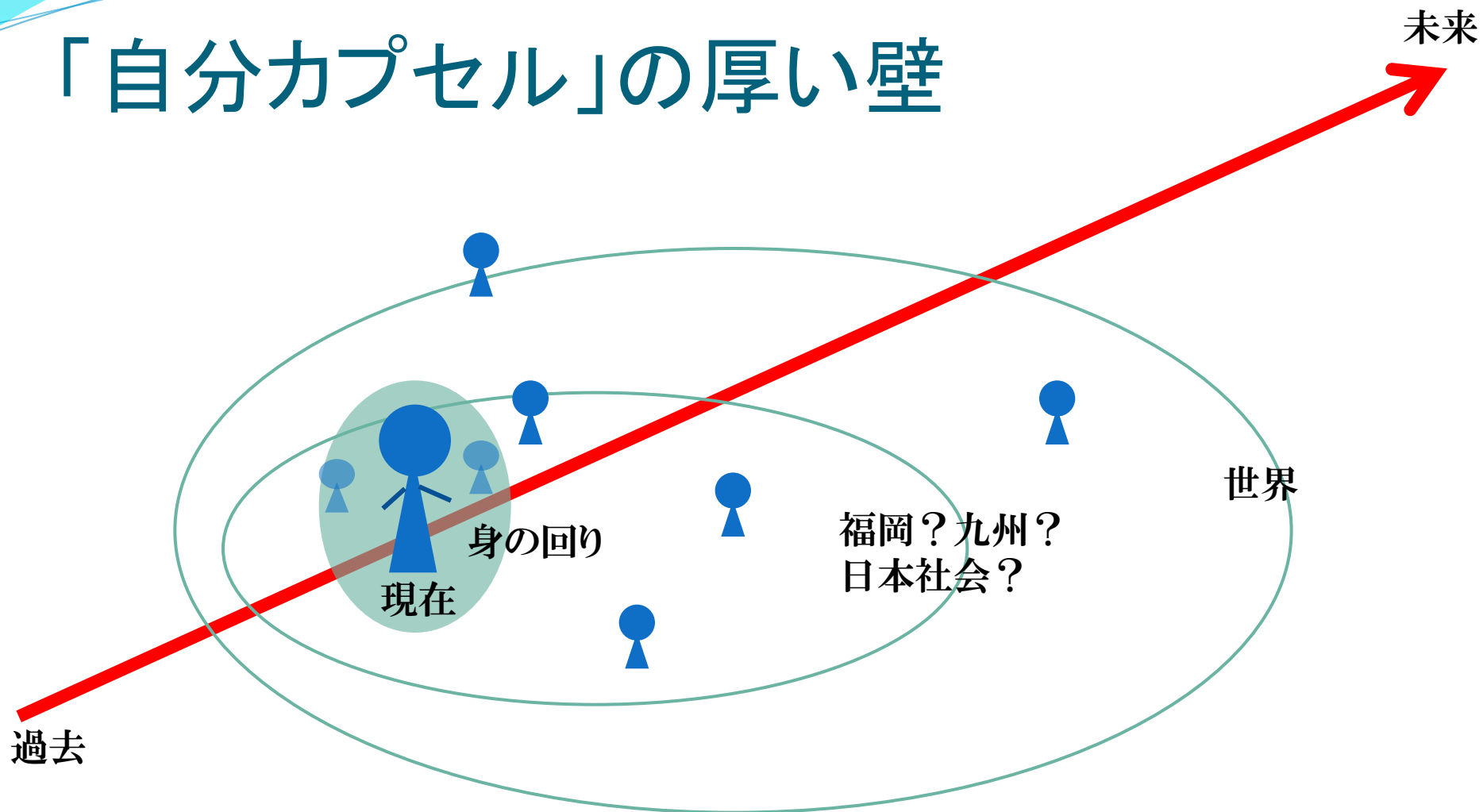


山田ズーニー(2008)「考えるシート」講談社をもとに作成

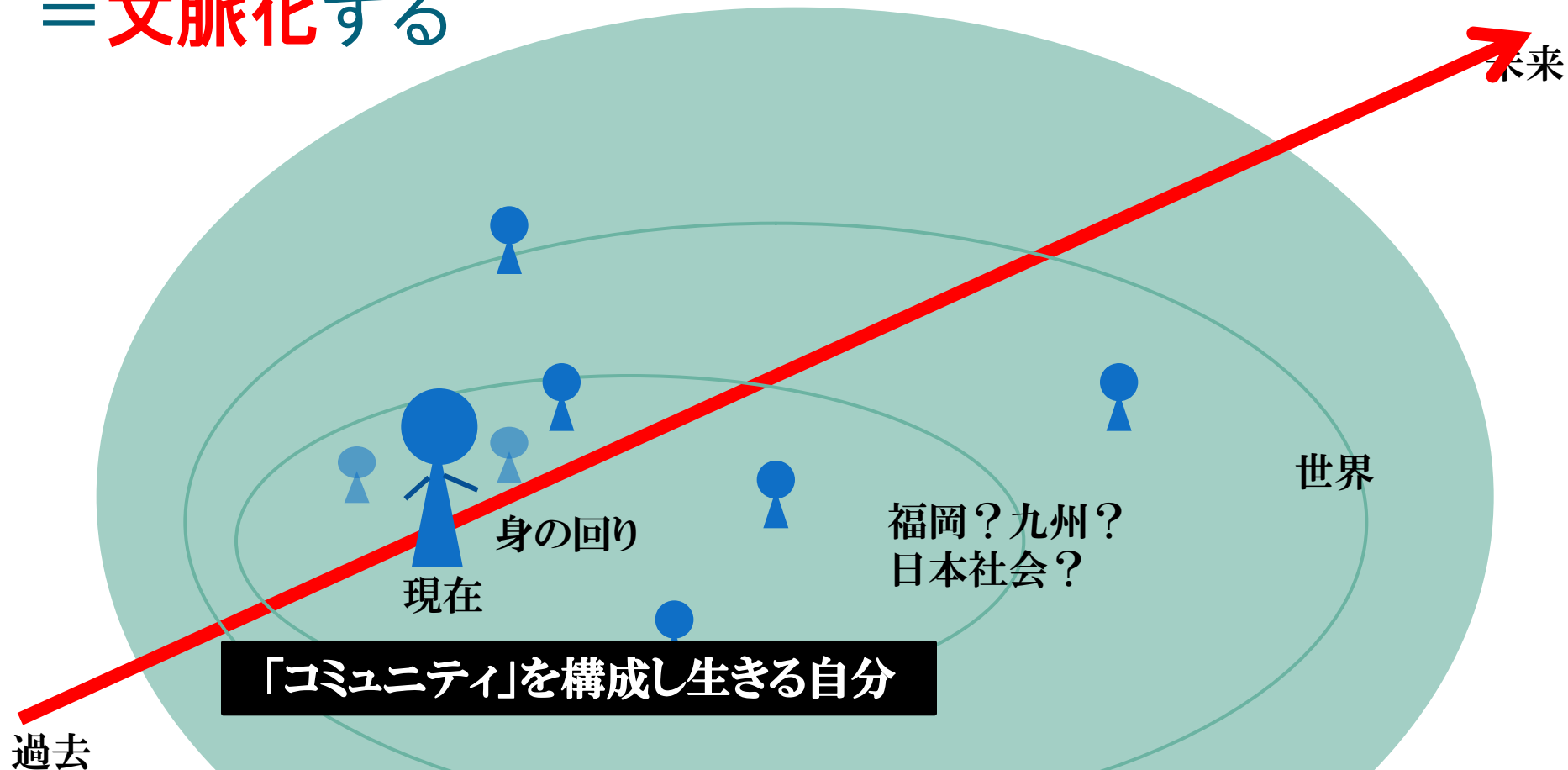
「自分カプセル」

- 他者や社会とのつながりや、時間的・空間的な広がりの中に自分が存在していることを認識させないカプセル
 - 「自分」そのものがそのまま存在している
 - 自らの知覚や行動の傾向を問わない(所与のもの、当たり前、開き直り?)
 - 「誰か／何かにとっての自分」、「自分が誰か／何かのために役割を担う」という発想が少ない
- なぜ?
 - 生活様式
 - コンビニ・自動販売機的世界観
 - 仮想的有能感
 - コミュニケーション
 - インスタント
 - 情報の氾濫(1995-2006、637倍[平成19年度情報流通センサス報告書])
 - 検討なきままの、あるいは安易な、自己肯定感
 - 「そのままのあなたでいい」「みんな違ってみんないい」氾濫
- そこで、他者や社会とのつながり、時間的・空間的な広がりの中で自分が存在していることを認識(=文脈化)するために、、
 - 様々なプロセスを創り出し、その中で「動く・働きかける」を試行し、そのプロセスを担う自分を俯瞰する力を培う

「自分カプセル」の厚い壁



自分カプセルを脱し、自分をひらく(開く・拓く)
= **文脈化する**



「自分カプセル」でいても成り立つのが大学の授業？

- 「授業はその場にいればいい」？
 - 講義型授業が根強く、90分座っていることが多い
 - 講義型でなくとも、例えば「学生主体」で「プレゼン作成」...プレゼン作成が自己目的化して、以下↓に欠けがち。
- なぜ学ぶか、何を学ぶか、どのように学びが進んでいるかを**俯瞰することの重要性が認識されていない／軽視されている？**
 - 「コンテンツをどれだけ覚えたか」に終始しがち？
 - 自分の意見も形成しにくい。コンテンツと自分自身の関係もよくわからない(例:環境問題、国際開発協力)
 - 方法論に終始しがち？
 - 論文やプレゼンの作法、ロジック(例:体裁、もっともらしいロジック)
 - コンテンツを学ぶ「自分自身」や、自分自身の成長という視点は「課外」マターか??
 - 「学びを支えているもの」視座・・・

授業は「自分カプセル」を打開する 学びの場となっているか？

- そこにあるものを消費するスタンス
 - 履修ルールの上げり(おろされてる感)

かかわらなければ、傷つかない

(...一見、「優しさ」をまとった)つつがなさの横行

- 積極的な因子や自らの反動的認識の概念が乏しい
 - 「グループワーク」をしても、「何のためのグループワークか」を問わないままであることが多い(グループワークからどのような自分・他者を発見するか、チームで動くとは一体どのようなことか)

体験学習プログラムでの実践(1)

- 学生が、自分の学び方自体を、自分で能動的にデザインするように仕掛ける＝学びにおける**当事者化**
 - 事前・発展学習における週1回の座学も「体験」
 - プロジェクト型。毎回のスケジュールづくり、司会進行、タイムキーパーも学生たち
 - 授業外学習・活動が必須
 - 初年次全寮制。教育寮としての寮
 - 現場体験での「福岡女子大のれん」意識
 - 名刺携帯
 - 発展学習ではシラバス自体を学生たちが作成
 - 学習目標、内容、評価項目・基準...
 - シラバスを品定めできるようになる

- 時間的・空間的広がり、他者とのかかわりを意識し、大切に
するように仕掛ける = **文脈化**
 - 現場での企画
 - 性別、年代、職業・・・多様な人たちと、何かしらのプロジェクトを実行。
就業体験にも(広報、営業、販売...)
 - 受け継ぐプロジェクト、引継ぐプロジェクト
 - オープンキャンパスでの体験学習ブース運営
 - 高校生たちとかかわる
 - 「学び」は何によって成り立っているか
 - 大学の成り立ち、改革の中での体験学習、県税と運営費交付金...

体験学習プログラムでの実践(3)

- 成長や停滞を観ておくこと。観ておきつつ、それらを学生自身が意識できる(ふりかえることができる)ような質問をする
 - 週1の教室での学び以外に、現場へのメール、現場活動の報告書、現場でのプロジェクト企画書作成等、日々の学習・活動の中での観察
 - 「相手」「受け手側」「パートナー団体・関係者」「社会」視点に立った問いやフィードバックを投げかける＝**文脈の中での当事者意識涵養**
- **ふりかえり(リフレクション)**＝「反省」ではない。「次」のため。
 - 何がうまくいって、何がうまくいかなかったのか。何に気づいたか。それはなぜか。それをどうしていきたいのか。

自分カプセル脱出のために工夫していること

- **スタンス：泥仕合をする**
 - 「あたりまえ」をひとつひとつひっくり返す＝「なぜ」問う実践
 - 与えず、渴望してもらおう。壁になる
 - ざらつくことを恐れない。ざらつく先にあるものを体験してもらおう
- **大切なふたつの問い**
 - 「自分を成り立たせているもの」を問う
 - 生産者、現場、大学、県、家族、出身高校・・・
 - 相手、社会あってこそ
 - 「じゃ、自分には何ができる」を問う
 - 「還す」こと。自分は何かによって成り立っていて、その何かを同時に積極的に構成している自己イメージの育成

学生たちによる学びのふりかえり

スリランカプログラム参加生が作成した映像

ムービーの語りから...

- 学生たちに共通する姿勢「誰かがやってくれるだろう」
 - 「自分がやらねば」ではなく、「出る杭は打たれる」、「KYが怖い」、「どうせ...」
 - それが、「自分がやらなくては」に変容していく

You gain strength, courage, confidence,
by every experience in which
you really stop to look fear in the face.

「恐れ」に真正面から立ち向かう度に、
強さ、勇気、そして自信を得るのです。

...You must do the thing
you think you cannot do.
「できない」と思ふことをやってみなさい。

-Eleanor Roosevelt (1884-1962)

エレノア・ルーズベルト

(F. ルーズベルト大統領の妻。

米国国連代表として世界人権宣言を起草。女性、黒人、移民等少数派の社会的地位向上に尽力。)

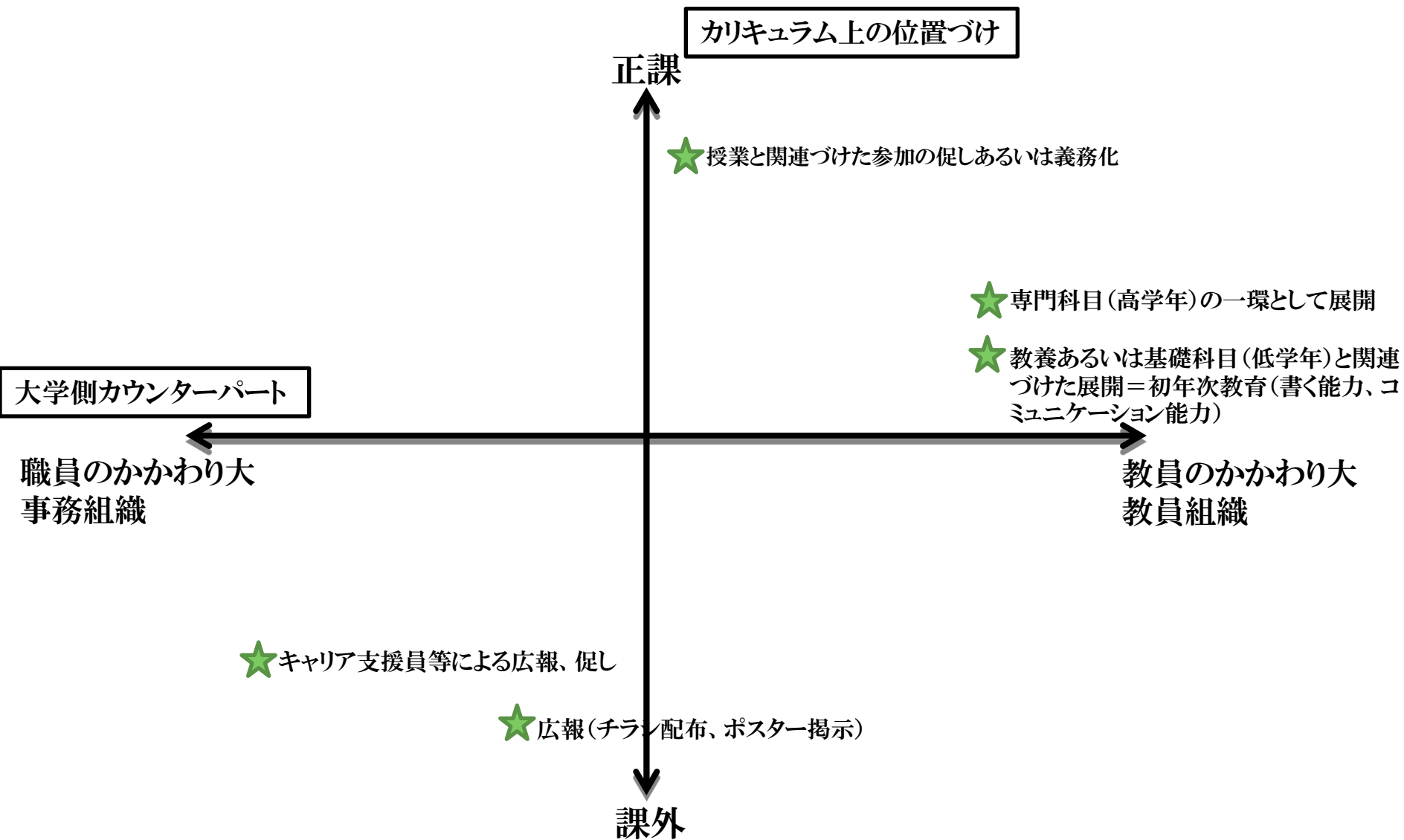
女子学生のキャリア教育事業： 行政との連携

- 福岡県男女共同参画センター・あすばる
 - 「イケてる社会人と学生の150名ワールドカフェ」(2011年、2012年、2013年)
 - ロールモデルとの対話促進、単発
 - プロボノ(民間出身・女性起業家である館長や和栗のネットワーク、あすばるの他事業との関連づけ)→予算措置
 - ロールモデルの職場でのインターンや自然発生的メンタリングへ発展
- 長崎県男女共同参画室
 - 「ながさき“F”プロジェクト」(2013年～)
 - ロールモデル取材、半年間
 - 交通費や謝金、ロールモデル集発行(今年度は予算超過)
 - 2013年3月9日(日)成果報告会

女子学生のキャリア教育事業： 行政との連携

- 工夫したこと
 - 当事者化：聞くだけではなく、参加し、話すこと
 - 自己開示を促すような場づくり(コーヒー、お菓子...)
 - 「自分」を見つめ直す、問い直すことの積極的意識づけ(協力者&学生の自己開示)

女子学生のキャリア支援における 大学と行政の連携の可能性



女子学生のキャリア支援における 大学と行政の連携の可能性

- ターゲット・成果をどこにおくか
 - 参加者にどうなってもらうための事業？
 - 学年？
 - ノウハウ系(給与格差、女性登用、ライフサイクルと仕事)
 - 全人教育系(自己分析、コミュニケーション能力、志育成)
 - 単発にするか、シリーズ化するか
 - 行政が実施することの意味・価値をどこにおくのか？
- 大学にとってのメリット
 - 「女子学生のキャリア支援」をテーマに身につけられる(学生ができるようになる)ことは何か？
 - 書く、読む、聞く、話す。多様な人とかかわり、関係をつくる...初年次教育？
 - より「ディープ」なインターンシップ？

ありがとうございました！

- Email:
 - waguri@fwu.ac.jp
- Twitter
 - momoinko
- Facebook
 - 「福岡女子大学正課体験学習」